

新たな岡山県基幹種雄牛の紹介 ～兄弟でデビュー！～

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 育種改良研究グループ

次世代を担う新たな岡山県基幹種雄牛として、平成29年度に同じ母牛（たかみず81）の産子から2頭が選抜されたので、ご紹介します。

【新規基幹種雄牛】

1. 「新高水」号

～優れた産肉能力の新藤良系！～
平成29年6月選抜



生年月日：平成23年3月21日
生産者：井口 貞信氏（津山市）
育成者：森岡 和雄氏（津山市）
登録番号：黒原5609 審査得点：83.7点
血統：

父	母	祖父	祖母	祖々父母
新 糸 藤		糸 藤（大分）		糸福（大分）
				つるひめ6
		しんはつひめ1		利 花
				第2はつひめ
たかみず81		平 茂 勝		第20平茂
				ふ く み
		たかみず8		北国7の8
				たかみづ3

「新高水」号は、大分県の「糸藤」号を父とする「新糸藤」号の後継牛として作出された種雄牛で、第10回全国和牛能力共進

会（長崎県大会）の種牛の部（1区）において優等賞を受賞しました。

父の「新糸藤」号は、肩付きや骨じまりが良く、産肉能力では脂肪交雑に優れた藤良系種雄牛ですが、枝肉重量がやや小さいことが課題でした。母の「たかみず81」号は、藤良系と気高系の増体系で作出され、体積が豊かで、特に体幅や体深に優れており、産子の枝肉も肉量、肉質ともに優秀な成績を出しています。

このような父母から作出された「新高水」号は、体幅、特に岡山和牛の課題である前軀の幅と形状に優れていて、これらの改良が期待できます。現場後代検定成績では、枝肉重量、ロース芯面積が特に優れ、バラの厚さと脂肪交雑においても高い育種価であり、産肉能力の優れた藤良系種雄牛となっています（表1）。

表1 「新高水」号の現場後代検定成績及び育種価

	検定成績		第47回育種価
	去勢	雌	
枝肉重量(kg)	500.6	455.4	38.379 (C)
ロース芯面積(cm ²)	63.0	61.9	12.334 (A3)
バラの厚さ(cm)	8.1	7.9	1.209 (5%)
脂肪交雑(BMS No.)	7.4	6.7	1.719 (A2)
上物率(%)	88.9	88.9	

交配については、検定成績からみると藤良系または兵庫系を父に持つ雌牛との交配で脂肪交雑が好成績でした。また、雌牛の系統を問わずバラの厚さがあり、安定していました。

本牛は体幅に優れていますが、体長におい

てやや課題があるため、体長の優れた雌牛との交配で質量兼備の産子が期待できます。

2. ^{しんおかみつ}「新岡光81」号
 ～岡山県初「茂洋」の息牛～
 平成29年10月選抜



生年月日：平成24年8月8日
 繁殖者：井口 貞信氏（津山市）
 生産者：西村 佳明氏（新見市）
 登録番号：黒原5743 審査得点：84.5点
 血統：

父	母	祖父	祖母	祖々父母
茂	洋	茂	勝	茂 重 波
				ひ で か つ
たかみず81	たかみず8	平 茂 勝	たかみず8	糸 晴 波
				あわたに1
				第20平茂
				ふ く み
				北国7の8
				たかみづ3

「新岡光81」号は肉質の改良を目的に、宮城県の「茂洋」号を利用して作出されました。父の「茂洋」号は茂金系で、体型は体深、中軀幅、尻の形が優れています。産子の枝肉成績は枝肉重量、ロース芯面積が大きいことに加えて、傑出した脂肪交雑の成績を出しました。母牛は先ほど紹介した「たかみず81」号で、「新高水」号と半きょうだいです。本牛も「たかみず81」号の優れた増体能力を受け継いでおり、特に体積と均称に優れ、体上線も良好です。また、現在、当研究所で繋養している種雄牛の中で一番大きい種雄牛です（平成29年12月現

在の体重：1,005kg）。

「新岡光81」号の現場後代検定は、家畜改良事業団と共同で実施されました。去勢では全頭が4規格以上の上物でした。検定成績はどの形質も優れていますが、特に枝肉重量と脂肪交雑では岡山県種雄牛の中で過去最高の成績が出ており、質量ともに優れた産肉能力となっています（表2）。

表2 「新岡光81」号の現場後代検定成績及び育種価

	検定成績		第47回育種価
	去勢	雌	
枝肉重量(kg)	528.8	485.5	110.396 (1%)
ロース芯面積(cm ²)	60.6	63.2	16.887 (5%)
バラの厚さ(cm)	8.2	7.9	1.316 (3%)
脂肪交雑(BMS No.)	7.6	7.4	2.198 (3%)
上物率(%)	100	92	

交配については、気高系または兵庫系の繁殖雌牛との交配で脂肪交雑とロース芯面積が好成績でした。また、気高系の繁殖雌牛との交配で枝肉重量とバラの厚さに優れ、安定していました。

ただし、本牛の産子は大きい場合がありますので、未經産牛への交配は避けてください。

また、本牛の凍結精液は製造が難しく、しばらくの間供給できない状況でご迷惑をおかけしていましたが、平成30年3月から販売を再開しました。

当研究所で現在繋養中の基幹種雄牛は、「新初英」号、「義勝成」号、「藤沢茂」号、「黒金糸藤」号に上記のニューフェイス2頭を合わせた6頭となりました。いずれも本県の和牛改良に資する優秀な種雄牛ですので、ぜひご活用をお願いいたします。

終わりになりますが、種雄牛の生産者をはじめ、現場後代検定に協力して頂いた繁殖農家並びに肥育農家の方々、多くの関係者の皆様に感謝を申し上げます。

(西川早百合)